

テーマ 授業の取り組み

身近な紙素材の廃材に着目した教材研究



キーワード： 紙、再利用、伝承、協同

○活動に取り組んだきっかけ・背景

保育では、身近な材料に気づいたり、廃材を活用したり、材料を無駄なく使う、工夫するなどの意識があらゆる活動に根付いている。とくに、描く、つくる、つくったもので遊ぶ、使う、飾るなどの造形表現活動は、廃材を活用した活動が多様に展開できるので、保育の造形活動を理解する授業では、廃材を用いた教材研究を行っている。

○活動の目的

廃材の中でも紙素材は身近で多様にあるので、さまざまな教材研究を通して親しみ、造形表現活動の楽しさと子どもの造形表現活動の理解を導きたい。活動を通して紙素材の廃材の扱いやすさ、紙を折る遊びの楽しさ、造形的魅力や伝承の遊びの良さ、さらに紙と親しんできた文化を、次世代の子どもたちに伝えもらうことを願う。

○具体的な内容

①紙を破る・ちぎる教材研究：新聞紙やチラシ・雑誌を破る、ちぎるなどして、紙を破る音、ちぎる感触などを味わい、破いた紙の形にイメージを探す。そしてクレパスで描き加えたり、コラージュするなどして素朴な造形表現活動の楽しさを味わう。②紙を折って遊ぶ教材研究：新聞紙・チラシを折って、かぶとや多種の帽子、紙でっぽう、折り紙飛行機（へそ飛行機・いか飛行機ほか）など、伝承の折り紙遊びを、紙の種類と大きさを変えて試し、活動の楽しさを味わう。③新聞紙の教材研究：新聞紙を丸めたり、包んだり、ちぎったり、貼ったりするなどして新聞紙に親しみ、工夫する楽しさや自由につくり表現する楽しさを味わう。④空き箱の教材研究：数名でグループになり、空き箱を高く積み上げる遊びや、空き箱を床に並べて形づくりの遊びの活動の楽しさを味わう。

○期待される効果など

廃材は生活の中に多くあること、そして実体験を通して廃材それぞれの特長について学ぶでしょう。特に紙素材の廃材は身の回りに多くあり、加工も容易なので、保育の造形表現活動の材料として広く活用できることに気づくでしょう。同時に私たちの文化や保育の造形表現活動は、SDGs の精神が備わっていることを理解するでしょう。



教員名 小倉 隆

所属学部・学科 短期大学部 保育科

職位 教授



連携先